

W S T C

(ワークマンシップ トレーニング コース)

—「働くことの意識づけ」が必要—

「働く」ということについては、定年に至るまでの間、幾度となく揺らめくことがあると思います。使命感に燃えて一生懸命働いたときもあれば、惰性で毎日进行してしまったり、イライラしながら耐えていたり、仕事に打ち込むことよりもじっと定年になる日を待っているなどということもあるでしょう。そうしますと、企業人としてのあらゆる場面で、働くことに対する意識の喚起や回復、改革をはからなければならないのではないのでしょうか。

とくに入社して1～2年した時、心の中に職場や仕事に対する慣れと他の会社や他社社員の動きなどを見るゆとりがでてきます。同時に、自分の今の仕事や職場や周囲の人間関係などについてイヤ気がさしてきたりもします。仕事に慣れたというだけでしかないのに、仕事観、企業観に一種の”揺らぎ”のようなものが出てきます。ヨソの会社がうらやましくなったり、悪い遊びに誘惑されやすくなったりします。このようなときにこそ、正しい職業観、社会観、人生観をもつように指導しなければならないのではないのでしょうか。

その点で大変効果的な訓練が、「WSTC」です。WSTCというのは、Workmanship Training Course(「ワークマンシップ・トレーニング・コース」)の頭文字と語呂合わせをして名付けた言葉で、「働く者の精神」あるいは「職業魂」といったことを良い方向に指導訓練することをねらっています。その意味するところを簡単にみてみましょう。

第二次世界大戦後、主に米軍を通じて各種の訓練方式が導入されましたが、これらは大体において経営者、管理者、監督者ないしスタッフを直接対象としたものであって、一般社員を対象としたものではありませんでした。

一方、戦前と戦後とでは、日本国民の思想も秩序も全くといっていいほど変わってしまいました。今もって、戦後の日本国民に新しい社会秩序、新しい倫理秩序が本当に確立し、真の民主主義が定着するにはまだ時間がかかるといわれています。古人は「衣食足りて礼節を知る」と言いましたが、国民は大変豊かになり、飽食の時代と言われるほどになったにもかかわらず、かえって礼節を知らない人間が増えてきているように思えてなりません。

産業界においても、働く人々の社会を見る目や、企業観、職業観などにも大変物足りなさを感じます。特に若い人々は経験も浅く、成長過程での世相や受けてきた教育の影響で必ずしもわれわれにとって望ましいものとは言えないものを感じるのではないのでしょうか。

そうした点、何が正しいかは大変難しいことですが、何はともあれ、人間の営みというもの、政治であれ、経済であれ、宗教であれ、全て人々が幸福になるために行われるものであるということです。それは真理と言えましょう。しかし、それを実現していくためには、人々が善意と協同と調和をもとにしなければできないことと思います。

例えば、スポーツをするには、そこに参加する人々のルールを守ろうとする善意と共に目標を達成する働きがありますし、チームワークを保って行動しています。そうした心構えを「スポーツマンシップ」といっています。そうしますと、働く者にも「働く者の心構え」というものがなければならぬのではないのでしょうか。なければ教育し訓練しなければなりません。それらを系統的に教育し訓練するために、兵庫県経営者協会が作成したのがこのWSTCなのです。

回講座内容

	テーマ	内容
第1会合	会社とは何か	会社の使命・社会的意義を明らかにする。
第2会合	組織人としての役割と使命	企業組織・組織活動の意義、組織内での個人の役割と使命を理解する。
第3会合	個人の自由とチームワーク	自由の意味を理解し、組織におけるチームワークの意義と必要性を認識する。
第4会合	働くことと生きること	生きていくことの意味を考える。働くことを通じて自分の人生を創造していくことを認識する。
第5会合	仕事に対する心構え	責任感をもって仕事に取り組むことの大切さを理解する。品質、原価、納期、安全などを意識する。
第6会合	仕事の進め方と仕事の改善	科学的な仕事の進め方の基本について理解する。改善の必要性・やり方についても理解する。
第7会合	職場ルールとマナー	職場のルールとその役割を認識する。マナーの意義と重要性を理解する。
第8会合	職場の対人関係	人間関係の重要性を理解する。他人を知ること・自分を知ることの重要性を理解する。
第9会合	顧客満足とは	企業はいつもお客様の立場に立つということを学ぶ。サービスを具体的に考える。
第10会合	サービスの質を高める コミュニケーションと態度	サービスの質を高めるのは「人の手によるもの」であることを理解する。
第11会合	安全衛生と健康	安全衛生の基本を理解する。健康が全ての活動の基本であることを理解する。
第12会合	自己啓発	自己啓発の大切さを理解する。大きな人間に成長する意欲、自己啓発を継続する意欲を持つ。

回実施要領

対象：入社1～2年目の方、若手社員《職種・性別は問いません。》

定員：6～10名《上限12名》

時間数：1日7時間×3日間＝21時間《カスタマイズ可能です。》

回過去の実施企業（順不同・敬称略）

関東開発、正田醤油、オリエント、群馬県建設技術センター、両毛システムズ、群栄化学工業、ケービックス、榛桐会、横浜ゴム、OPENER、他

随時受け付けております。お気軽にお問合せ下さい。